

は仲がよかった(？)そうだ。

そのころは、改造に対する取り締りは緩かったので、クルマについてはあまり文句を言われることはなかった。うただけで、走りまわることについて、健全な住民の迷惑になるから、走りたかったら山へ行け」と指導されていたらしい。

それがきっかけで峠チューンの達人になったのかどうかは、定かではないが、「いまの峠での取り締りを考えると昔はよかったね」と鈴木さんはいう。「最近の取り締りはビジネスだから、取り締まられる側もそれなりの対応が必要だよ」と簡単にいう鈴木さんの現在の愛車は510ブルーバード。フル公認なので安心なのだ。そんなのズルいよお〜。

### トライアル

## 牧原さんの体験談

GTRに乗っていて、マフラーの音が大きいと白バイに止められた。もともと音自体はそんなに大きくはなかったのだが、警官も停めたからには何か違反を見つけてはいたはずだ。そこでマフラーに目があったのだ。

職業は、会社員です。といったのだが、つい音量の話になった時に「○○ホーンを越えてないから問題ない



「知っているも余計なことは言わない」とやネ

……」とチューナーの一面をさらけだしてしまった。すると白バイの警官もムキになって「なら計ってみようじゃないか」ってことになったわけだ。逃げるわけにもいかず、イヤイヤながらついていくことに。

ところが、警察署の音量の測定器はエンジン回転数と音量を同時にデジタル表示して計るものだった。音量測定には、最高出力の何%の回転数で、という決まりがあるのだ。

警官にはダイレクトイグニッションを採用しているGTRのエンジン回転をピックアップする配線がわからない。もちろんマッキーはどこに配線すればいいかを知っていたのだが、「ボンネットも開けたことがないのに知るわけないやんか」とトボケとおした。

結局、配線がわからず、おとがめなしという事になった。しかしそんな和解に「ハイハイ」と帰ってくるマッキーじゃない。「このGTRは、書いてあるマフラーは音量規制のワクから出てないやん」と捨てぜりふを残してその場を立ち去って来たそうだ。

### WAVE

## 蓮沼さんの体験談

過激(?)なクルマを作らせたなら全国で1〜2位を争う、といわれる、サイドドリプロシヨップこと、WAVEの蓮沼店長は、意外にも、生まれてこのかた整備不良のキップを切られたことがないんだって！

つい先日、チャキチャキのWAVE仕様。のシルビアで都内を走っていて、たまたま白バイに止められたときのやりとりがこうだ。  
(オマワリ)「なんだオマエ、こーんなハデな色にしてデツカいハネつけてえ。違法改造車だろお、コレツ(？)ばあ

「ウソも方便、ガツンと効くホントの切り札はコレ」



きれかえって」

(蓮沼)「さあねえ、たった今お客様とこから引き上げてきたばっかりだからよくわかんないっすよ(↑ウソ)」「(オマワリ)「お客のクルマあ？ なんだ、学生じゃないのか!? 仕事ナニやってんだ?」

(蓮沼)「仕事お？ 社長だよ、社長っノ(↑ホント)」

### フジダイナミクス

## 藤井さんの体験談



「あきらめるのも手なんじゃないかな?」

ちよつと古い話なんだけど、シメカフルチューンの130Zに乗っていた頃、オマワリさんに止められてしまったことがあるという。客疑は足まわり(シヤコタン)だった。当時はスプリングが遊んでいるとか、いないとか、そんなことは関係なし。「このクルマ車高

だったら、自分の持つありったけの知識をぶつけて応戦だ。これでもオレは2級整備士の資格をもっているんで、ヤツらのハンパな知識などおよびじゃない。ヤツらの切り札である「陸事に持って行って調べる」もシカトだ。もちろん、そこまでされる覚えはないからだ。

あんまりにも強引な態度を取ってくる粗悪な警官には身分を証明してもらうことにしている。実は、オレにも強引な切り札があるんだよ。みんなにはちょっと悪いけど。

「ボクはね、自動車関係のジャーナリストやってるんだけど、今度警察の行き過ぎた取り締まりに対して特集を組もうと考えてるんですよ。ぜひドキュメンタリーとして採用したいので、所属部署と階級、名前を教えてください。後ほど上役の方に了解をとって取材にお伺いしますから」といっておもむろに筆記用具を取り出す。携帯電話を取り出し「いいネタ見つけたから」と独りごと。これでまず、キマリだね。

止められても切られないコツってのは、まず第1にあきらめないこと。これっきゃないでしょう。それと、弱気にならない、悪びれない、後ろめたさを感じない。「自分のクルマをどういじろうとカンペーないだろ」くらいの気持ちで挑むのがいいみたいだね。

白バイに止められたとすんでしょ、「ジャッキアップしてください」とくるわけだ(この時点でなんて止めた? と食いつかる場合もあり)。すかさず「なんでそんなことするの?」と、アッサリ切り返してやる。「足まわり改造してるだろ」とスゴまれたって取中なしにだ。

次に、いかにもどうどうと「イジってるけど、なんか問題あるのか」だ。なにしろヤツらにクルマの検査をされる覚えはないし、ヤツらにそれを強要する権利もない。法律でもクルマの検査(車検)は2年ごとに受ければいと定められているんだからね。

足まわりについてシノゴノ言うよう

### OPTION2編集部 フユの体験談

「確率からいえば、  
止められて切られるのは  
約20%ってところかな?」

オレの場合、年甲斐もなく小僧チックなハチロクに乗ってることもあって止められることは多い。とーぜん、キップを切られたことも多い。これ、違法改造してたんだからしょうがないことだと思ってる。

でも、切られるケースは止められた回数の約20%。止められて全部が全部キップ切られてたんじゃ、とっくに免許がなくなってるよ。

10年にわたる整備不良歴でオマワリとのやりとりを繰り返してきたオレには、それなりのノウハウっちょーモンがあるのよ。その成果が20%という数字なんだな。

が低いなあ」と思われるだけでキップを切られる、そんな時代だったのだ。ところが、そのとき藤井さんはジタバタせず素直にキップを切られることにしたぞ。

車高を低くしていたのは事実だったし、それよりも、見つかるもつとヤバイところが山ほどあったからだ。陸事に呼び出しながらのことになったら目もあてられない。「それだけは避けた